

第7章 昆虫類

花宮 俊策

佐伯市の昆虫類

はじめに

大分県には、8, 233種（平成23年10月現在）の昆虫が生息しています。大分県の南部に位置する佐伯市は、リアス式海岸で有名な海岸部地域、番匠川水系が流れる低山間地域と平野部地域1,000メートルを越える山々が連なる山間部地域、そして、その中心を横切っている石灰岩の地層地帯があります。それぞれの地域には、その地域でしか見られない種類の昆虫をはじめとして、多くの昆虫類が生息しています。今回の自然調査では3年間にわたって代表的な地域を調査しました。それと過去の佐伯市における昆虫類に関する文献を加え今回の調査報告とします。また、今回の報告では、特に県内でも佐伯市でしか見られない昆虫を取り上げ今後の保護への提言を加えています。

1 海岸部地域（上浦・鶴見・米水津・蒲江） と島（大島、沖黒島、屋形島、深島等）

複雑に入り組んだリアス式海岸を形成する海岸部地域は、上浦から蒲江まで続きます。そして、ウバメガシを中心とした林が沿岸に形成されています。また、この地域には、大島、沖黒島、屋形島、深島（大分県最南端の島）をはじめとする島々が点在しています。この地域は、黒潮（暖流）が流れている関係から、冬も温暖で、南方系の甲虫（ニッポンモモブトコバネカ



波当津海岸



沖黒島

ミキリ、ヤマトチビコバネカミキリ、アヤムネスジタムシ等）が生息し、また、近年の温暖化の関係から、九州南部以南からの迷チョウ（ヤクシマルリシジミ、タテハモドキ、カバマダラ、クロマダラソテツシジミ、ウスキシロチョウ、アマミウラナミシジミ、ルリウラナミシジミ等）をはじめとする南方系の昆虫（ベニトンボ）の北進やそれに伴う定着も多く報告されています。さらに、この地域には、大分県での絶滅が心配される、イカリモンハンミョウとタイワンツバメシジミの2種が生息しています。

ニッポンモモブトコバネカミキリは、体長6～9ミリ、成虫出現期は7月～8月、数年前までは、米水津湾外に浮かぶ沖黒島（無人島）が、県下唯一の生息地でしたが、宇目藤

河内や蒲江波当津浦でも確認されました。今回の調査では、沖黒島で採取したクスノキ科の材と蒲江波当津浦の材から得られました。

ヤマトチビコバネカミキリは、体長3.5～7.5ミリ、成虫出現期は5月～8月、津久見市四浦半島と佐伯市の鶴見半島が九州唯一の生息地です。食樹はウバメガシで、この木は半島の先端部の急峻な崖等に多く見られます。今回の調査では、鶴見梶寄浦で採取したウバメガシから得られました。アリと間違いそうなどとも小さなカミキリムシの仲間です。

カバマダラは、タテハチョウ科のチョウで、夏の終わり頃、海岸部のトウワタやフウセントウワタが生えている場所で見られるようになりました。迷チョウなのか土着したのかはまだはっきりしませんが、蒲江畑野浦では、食草のトウワタで幼虫や蛹が確認されていますので、毎年発生していることは確実です。しかし、越冬はできず一時的な発生を毎年繰り返しているようです。



カバマダラとトウワタ（蒲江）



クロマダラソテツシジミ（鶴見）

クロマダラソテツシジミは、シジミチョウ科のチョウで、食草はソテツです。幼虫はソテツの新芽に進入し食い荒らします。2009年、蒲江蒲江浦のソテツでチョウや幼虫が初めて確認されました。他に佐伯市では鶴見、米水津、上浦、長島町等でも卵、幼虫、成虫が発見されましたが、冬の訪れとともに姿を見なくなりました。定着はできなかったようです。新芽を幼虫が食い荒らしますので、発生している場所のソテツ

は丸坊主で葉のない状態になってるか葉があってもボロボロで遠くからでもすぐわかります。幼虫を飼育しましたが、食欲が旺盛でライフサイクルが短いのに驚きました。

サツマゴキブリは、朽木の樹皮下等に多く見られます。特にこの地域では道路脇などに植えてあるハマユウの葉の付け根でよく見られるゴキブリです。水分の多い場所を好むゴキブリなのでハマユウの葉の付け根に多いのでしょう。今回の調査でも、上浦から蒲江に至るハマユウでよく見かけました。大変おとなしいゴキブリです。また、このゴキブリの仲間のオオゴキブリもこの地域の腐朽材で見かけました。オオゴキブリは、大きく立派なゴキブリで腐朽材の中にトンネルを掘り家族生活をするので有名です。



サツマゴキブリ（蒲江）



ハマオモトヨトウ幼虫

ハマオモトヨトウは、ガの仲間です。ハマユウ（ハマオモト）を食草とするのでこの名前がつけました。このガも、この地域には多く、ハマユウの花が咲く頃、その花の茎を幼虫が食害しているのが目につきます。中には食害により中が中空となり花が倒れているものも多く見られました。今回の調査では、池田、上浦、鶴見、米水津、蒲江とハマオモトの生えている場所ではほとんど幼虫が確認できました。特に蒲江畑野浦の江武戸公園のハマユウの群落では、多くのハマユウがハマオモトヨトウの幼虫に食害されていました。

2 番匠川水系が流れる低山間地と平野部（直川・本匠・弥生・旧佐伯市）

日本でも有数の水のきれいさを誇る番匠川とそれに流れ込む堅田川、木立川、床木川等の流域地域は、農耕地と宅地が点在し、その間に照葉樹林（シイ、タブノキ、ヤブツバキ等）が残っています。この照葉樹林と豊かな水に育まれて多くの昆虫類（キュウシュウトゲオトンボ、ムカシトンボ、フチドリアツバコガネ等）が見られます。また、池田にはため池が、木立には湿地帯があります。そして、市民に愛されている城山がありここには市街地の近くであるにも関わらず多くの昆虫類が生息しています。



番匠川河口（女島）



トゲオトンボ生息環境

キュウシュウトゲオトンボ（ヤクシマトゲオトンボ・トゲオトンボ）

大型のイトトンボの仲間です。腹部の背面に突起（トゲ）があることからこの名前がついています。成虫の出現期間は、5月から8月で、ヤゴが生息する薄暗い水が滴る崖に成虫もひっそりと暮らしています。弥生尺間の国道からほど近い水の滴る崖で成虫を見ることができました。このような環境も保全しなければ佐伯市のキュウシュウトゲオトンボはすぐにはなくなってしまう。

ムカシトンボ

日本固有種の中型のトンボです。3月から5月にかけて成虫が出現します。山地の溪流

に見られる種で、番匠川に流れ込む河川では、多く確認されています。

トゲウスバカミキリ

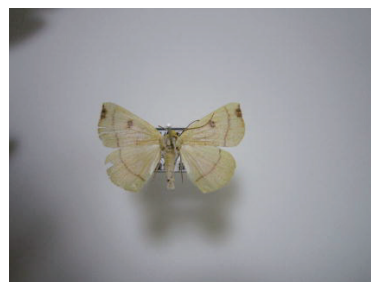
カミキリムシの仲間です。大分県レッドデータブックでは「準絶滅危惧 (NT)」 (現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種) で1952年に佐伯市城山で一死体が採集され、九州初記録となりました。九州では、大分県と鹿児島県の2例しか知られていません。今回、城山にも登りましたが、追加記録はできませんでした。城山も含めて佐伯市に昔から残っている照葉樹林には、トゲウスバカミキリの再発見の可能性はおおいにあると思います。

キイロサナエ

やや大型のサナエトンボの仲間で、大分県レッドデータブックでは「準絶滅危惧 (NT)」 (現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種) に指定されています。ヤマサナエによく似ています。佐伯市では木立で生息が確認されています。近年河川の環境の悪化で生息域が狭められています。木立は、この他、ホソミイトトンボ、クロイトトンボ、キイトトンボ、アオモンイトトンボ、セスジイトトンボ、ホソミオツネイトンボ、ハグロトンボ、コオニヤンマ、タバサナエ、クロスジギンヤンマ、ギンヤンマ、コヤマトンボ、ネアカヨシヤンマ、マルタンヤンマ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、コシアキトンボ、ベニトンボ、コノシメトンボ、ナツアカネ、マユタテアカネ、ハネビロトンボ等多くの種類の蜻蛉類を観察でき、蜻蛉類の生息環境が整っている地域です。

キイロミミモンエダシャク

ガの仲間で、大分県レッドデータブックでは「準絶滅危惧 (NT)」 (現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種) です。大分県では、香々地町 (現豊後高田市) と蒲江町 (現佐伯市) で、海岸部の照葉樹林のガとして確認されています。今回の調査では海岸部から少し離れた、弥生大坂本、弥生井崎のコンビニエンスストアの灯火に飛来しているものが確認されました。年2回発生しているようです。



キイロミミモンエダシャク (弥生)

3 山間部（宇目）

傾山や夏木山をはじめとする1000メートルを越える山々が連なる山間部及び山塊に深く切り込んだ溪谷部には、平野部や海岸部にはないモミヤツガ・ブナ等の植物が生育し、山地性の昆虫（ゼフィルス類、ハナカミキリ類等）が多く生息しています。またここには、九重山系に生息するものと共通の種も多いのですが、この地域にしか見られない特異的な分布をする昆虫（リュウキュウルリボシカミキリ）もあり、より複雑な昆虫層を形成しています。調査が進んでいる場所ですが、調査をするたびにこの地域ではまだ未発見の種が確認される興味深い地域です。

リュウキュウルリボシカミキリは、体長8～13ミリ、成虫出現期は3月～6月、宇目鷹鳥屋山で最初に記録されているカミキリで、南方系の遺存種と考えられています。今回の調査において再発見することはできませんでした。

カンボウトラカミキリは、体長12～18.5ミリ、成虫出現期は5月～8月、今回の調査では宇目杉ヶ越のリョウブの花にきている1個体に会うことができました。トラカミキリの仲間ですが細長い体型をしています。

山地性のゼフィルス

シジミチョウの仲間、ゼフィルスとは「森の妖精」を意味します。成虫の雄は、金属色の輝きがありそれはきれいな蝶ですが、高い木の梢を飛ぶ習性等から、見かけることはなかなかできません。今回の調査でも、時期が悪かったためかゼフィルスの仲間を見ることはできませんでした。

4 石灰岩の地層地帯

エゾナガヒゲカミキリは、大分県レッドデータブックでは「準絶滅危惧（NT）」（現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種）のカミキリムシの仲間です。石灰岩地のニガキを食草としており、非常に局地的な分布をしています。大分県では、風連鍾乳洞のある臼杵市野津町にしか生息していませんでしたが、これが弥生大坂本と木立で確認されたことはニガキの分布または石灰岩地との関係がこの2地点でも深いのかもかもしれません。興味深いことです。

メクラチビゴミムシ類は、名前の通り鍾乳洞に生息しているので複眼が退化しています。

佐伯市には、小半鍾乳洞（佐伯市本匠）や狩生鍾乳洞（佐伯市狩生）等の鍾乳洞があります。今回の調査には、鍾乳洞は含まれていませんでしたが、鍾乳洞ごとにそこにしかいない昆虫もいますので、今後の調査が楽しみです。

5 迷チョウ、偶産蛾、移入種の増加と定着

迷チョウ、偶産蛾、移入種は、本来その土地にはいなかった昆虫たちを指します。近年の気温の上昇等によって南から北進してきたもの等が、その土地に定着し子孫を残しています。佐伯市においてもこのような昆虫が近年特に増え、よく見られるようになりました。

ベニトンボは、トンボの仲間です。雄は、ショウジョウトンボの雄に似ていますがショウジョウトンボより小型で色もより鮮やかな赤色をしています。2006年に、佐伯市木立、豊後大野市緒方町、竹田市久住町で初めて確認されました。佐伯市木立においては、佐伯支援学校（当時は佐伯養護学校）の横にある池で確認されました。その後、佐伯市では木立大野の溜池、池田の溜池、鶴望の川、弥生江良の溜池、蒲江畑野浦、蒲江波当津浦で確認されています。また、佐伯市木立の佐伯支援学校のプールでは、2008年よりヤゴが観察され羽化も確認されています。このように佐伯市では今では毎年発生を繰り返し定着しています。



ベニトンボ（木立）



アメリカジガバチの巣（木立）

アメリカジガバチは、戦後、アメリカから入ってきました。佐伯市木立では、区画整理された田の中を流れる小川にかかる東屋の天井に、アメリカジガバチの白い粘土の巣が多く見られます。中にはギッシリと生きたクモと卵か幼虫のどちらか1つが入っています。アメリカジガバチは、クモを食べ成虫になります。

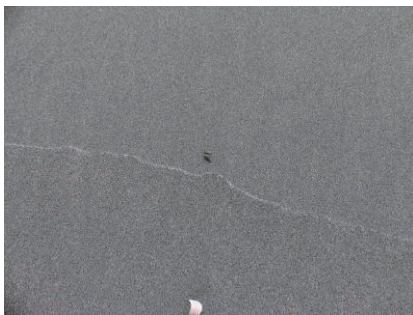
アオマツムシは、姿形は童謡で有名なマツムシに似ていますが、体色が鮮緑色です。大分県において1994年以降、急速に分布を広げています。近年、佐伯市内でもジュース等の自動販売機の明かりやコンビニエンスストアの明かりに来ているアオマツムシをよく見かけるようになりました。昼はリューーリューー、夜はリンリンリンと騒がしく鳴きます。



アオマツムシ（蒲江）

キマダラカメムシは、1770年代に長崎県で採集され、その後新種として記載されました。その後150年間発見されませんでした。近年、長崎県、福岡県、佐賀県のほか、大分県各地でも確認されています。このカメムシが、佐伯市内の街路樹（シマトネリコ、サクラ等）等で幼虫も含めここ数年見られるようになり定着したようです。このカメムシは、カメムシの中でも大型でよく飛びます。また、成虫越冬のため、屋内に侵入するケースも増加しています。

6 佐伯でしか見られない昆虫（絶滅が心配される昆虫）



イカリモンハンミョウ（蒲江）

イカリモンハンミョウは、環境省レッドデータブックではI（CR+EN）大分県レッドデータブックでは「絶滅危惧IB類（EN）」（IA種ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種）のハンミョウの仲間です。大分県では、佐伯市蒲江波当津浦の砂浜にしか生息していません。蒲江波当津浦は、大分県の海岸では最も宮崎県よりになります。遠浅のととてもきれいな砂浜です。この砂浜に、イカリモンハンミョウは生息しています。今回の調査でも、会うことができました。波打ち際を、そばに近づくとさっと遠ざかる、また近づくと遠ざかるを炎天下の中繰り返しながら観察しました。個体数は狭い地域ですから、多くはありませんが、少ない数でもありません。個体数は安定しているように感じました。しかし、このイカリモンハンミョウも、蒲江波当津に東九州道のICが完成すると絶滅の恐れがあります。観光客の増加による、砂浜の汚れ等の周辺地域の環境の変化が特に心配です。市としては、イカリモンハンミョウを守るため、あらゆる手段を講じて砂浜とその周辺地域の保全対策をお願いしたいと思います。海の町佐伯市にぴったりのイカリのマークを背中に背負っているこのハンミョウが姿を消さないよう願っています

タイワンツバメシジミは、（本土亜種）は、環境省レッドデータブックではI（CR+EN）、大分県レッドデータブックでは「絶滅危惧IA類（CR）」（ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種）のシジミチョウの仲間です。過去大分県では、日田市、杵築市、佐賀関町（現大分市）、臼杵市、米水津村（現佐伯市）蒲江町（現佐伯市）で確認されましたが、ここ数年、確認されているのは、佐伯市蒲江だけになっています。南方系の遺存種と考えられます。今回の調査では、その姿を見ることができませんでした。確認の情報もありません。タイワンツバメシジミの食草は、シバハギです。近年タイワンツバメシジミが少なくなっているのは、シバハギの減少だけではないようです。タイワンツバメシジミは、幼虫で越冬しますがその時、シバハギのそばにあるススキの枯れ葉に潜り込み

越冬することが発見されました。このことから、シバハギだけを保護するのではなく、シバハギを含めた周辺地域（ススキも）を保護しないといけないわけです。タイワンツバメシジミの減少（絶滅）を阻止するためには、行政を含めての生息地域の住民の理解と協力が必要です。佐伯市の蒲江でタイワンツバメシジミが飛ぶ姿がいつまでも見られるよう願っています。

むすび

ベニトンボのように新たに見られるようになった昆虫とタイワンツバメシジミのように過去の調査ではいたのに、なかなか会えない昆虫もいます。また、モンシロチョウやアゲハチョウなどによく見かける昆虫と、キイロミミモンエダシャクなどのように見たことも聞いたこともない昆虫も佐伯市には生息しています。今回の調査報告では、そのすべてを網羅しているわけではありません。大分県レッドデータブックや話題になった昆虫をピックアップして報告しました。佐伯市は、リアス式海岸で有名な海岸部地域、番匠川水系が流れる低山間地域と平野部地域、1000メートルを越える山々が連なる山間部地域、そして、その中心を横切っている石灰岩の地層地帯があります。これらの変化に富む地形から、いろいろな植物（草木）が生育しています。昆虫類は、それらを食べたりすみかにしたりしながら生活しています。多くの地形、多くの種類の植物があれば、それに応じた昆虫がいるわけです。佐伯市の豊かな自然が多くの昆虫を支えているのです。この豊かな自然がこれからもずっと変わらないことが大切です。



長良



池田

引用文献

- 寺山 武・岩本常夫
 中島三夫・岩本常夫・佐々木茂美・堤内雄二
 堤内雄二
 牛島弘一郎
 岩本常夫・佐々木茂美
 堤内雄二
 寺山 武
 宮田 彬
 中島三夫・岩尾一宏・寺山武
 佐々木茂美
 堤内雄二
 寺山 武・堤内雄二
 阿部俊久・岩尾一宏・岡部泰文・江田健治・藤川幸作・糸永辰見・安部治弘・由川常一
 岩本常夫・佐々木茂美
 寺山 武・堤内雄二・千葉 稔
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 高倉康男
 宮田 彬・三宅 武・堤内雄二
 高倉康男
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 三宅 武・堤内雄二
 三宅 武
 堤内雄二
 堤内雄二
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 中島三夫
 堤内雄二
 菊屋奈良義
 倉品治男
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 三宅 武・執行正清・森 一弘・堤内雄二・玉嶋勝範
 阿部俊久
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 佐々木茂美・宮田 彬
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 堤内雄二
 高倉康男
 佐々木茂美
 三宅 武・堤内雄二・倉品治男・藤田洋三・小野正則・佐藤 朗
 三宅 武・堤内雄二
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 三宅 武
 三宅 武
 三宅 武
 佐々木茂美
 野崎敦士
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 佐々木茂美
 宮田 彬・佐々木茂美・河野唯雄・竹中伸吾
 佐々木茂美
 佐々木茂美
- 1978 大分県産ゼフィルス分布について (その3)
 1978 大分県産天牛採集記録
 1978 ミスジチョウの新産地
 1979 大分県で採集されたコブハナダカカメムシ
 1979 大分県産天牛採集記録 (1979年度)
 1979 *Zephyrus* の新産地
 1979 1978から1979年の迷蝶記録
 1981 九州のニセタマナヤガの記録
 1982 アヤムネスジタマムシ大分県に産す
 1982 大分県におけるシデムシ類の発生消長
 1982 ミスジチョウの新分布地
 1982 鶴見半島採集行
 1982 大分県の直翅類 (その1)
 1982 大分県産天牛採集記録 (1980~'81年度)
 1982 キリシマミドリシジミ藤河内に産す
 1982 大分県産トゲトゲ族
 1983 常設ライトトラップに飛来した大分県の甲虫 (1980)
 1983 大分県から記録されたゴミムシ類について
 1984 祖母・傾山系の蛾類
 1984 佐伯市神楽山の甲虫
 1984 1983年に採集した甲虫7種の採集記録
 1984 クロヒメトゲムシの採集記録
 1984 宇目町杉ヶ越にてムカシントンボを目撃
 1984 宇目町南田原でカラスシジミを採集
 1984 南海部郡宇目町杉ヶ越のゼフィルス
 1984 スギタニルリシジミの採集記録
 1985 1985年に採った直川村の甲虫
 1985 直川村のトンボ
 1985 直川村の甲虫 (その1)
 1985 宇目町・杉ヶ越峠の甲虫
 1985 宇目町・切込谷の甲虫3種
 1985 宇目町・鷹鳥屋で採集したニセクビボソムシ2種
 1985 本匠村 (橋本貯木場) の甲虫
 1985 大分県の珍しいカミキリの採集記録
 1985 大分県におけるカミキリ数種の記録 ('83~'84)
 1985 *Chionea* sp. (ヒメガガンボ科) の九州分布記録
 1986 イッシキキモンカミキリ宇目町に産す
 1986 直川村の甲虫 (その2)
 1986 本匠村橋本貯木場の甲虫 (1985)
 1986 直川村のムカシントンボの分布
 1986 宇目町傾山のゼフィルス
 1986 大分県の直翅類採集目録
 1986 直川村の甲虫 (その3)
 1986 1986年に採集した宇目町の甲虫
 1986 大分県蒲江町深島の蛾類
 1986 佐伯市で採集した甲虫 (1986)
 1986 蒲江町深島の甲虫
 1986 フチトリアツバコガネを本匠村で採集
 1986 オオキンカメムシを直川村で採集
 1986 タケウチヒゲナガコバネカミキリ確実に大分県に産す
 1987 大分県産甲虫類の記録
 1987 大分県産ヒメテントウ分布記録
 1987 南海部郡米水津村のカミキリ
 1987 材から羽化したカミキリー1986年ー
 1987 直川村のトンボ
 1987 カクモンホソオオキノコムシを宇目町で採集
 1987 イガラシカッコウムシの食樹について
 1987 材から羽化したカミキリ2種
 1987 県南・海岸部の甲虫
 1987 材から羽化したカミキリ1987年
 1988 2年を経て羽化した *Moiorchus* 2種
 1988 2年越しの材から羽化したカミキリ
 1988 チビワガタとホソコハナムグリを直川村で採集した
 1988 鶴見半島で採集したカミキリ
 1988 ツヤケシヒゲナガコバネカミキリ直川村に産す
 1988 オオクロカミキリを杉ヶ越峠で採集した
 1988 シナノクロフカミキリを杉ヶ越峠で採集した
 1988 ヒゲナガカミキリの新産地
 1988 ブドウトラカミキリの食樹の新知見
 1988 サンカクスジコガネ直川村に産す
 1988 ホソクビアリモドキ琉球亜種を米水津村で採集した
 1989 大分県直川村及びその周辺の蛾類
 1989 キンヘリアトバゴミムシを宇目町で採集した
 1989 オキナワコアオ・キョウトアオハナムグリを県南で採集した

佐々木茂美	1989 ムツボシテントウを直川村陸地峠で採集した
佐々木茂美	1989 県南で採れたナナフシ類について
佐々木茂美	1989 マルタンヤンマを鶴見町鶴御崎で採集した
佐々木茂美	1989 アイヌハンミョウを宇目町で採集した
佐々木茂美	1989 米水津村沖黒島の甲虫
佐々木茂美・石松達堂	1990 大分県下のヒメボタルについて
河野唯雄・佐々木茂美	1990 タテハモドキを直川村で採集した
三宅 武	1990 大分県におけるヤクシマルリシジミの追加記録
三宅 武	1990 タイワンツバメシジミの新産地
佐々木茂美	1990 ニホンセセリモドキを杉ヶ越で再度採集した
三宅 武	1990 ホソリンゴカミキリの追加採集記録
三宅 武	1990 ヒメヨツズジハナカミキリ杉ヶ越に産す
佐々木茂美	1990 オキナワスジボタル蒲江町に移入か?
佐々木茂美	1990 県南のオオマドボタルの分布について
佐々木茂美	1990 ゴミムシ2種の記録
佐々木茂美	1990 ヒメニシキマワリモドキを直川村で採集した
野崎敦士	1990 大分県のアリヅカムシ (1)
菊屋奈良義	1990 ウラジロミドリシジミを宇目町で発見
菊屋奈良義	1990 サツマニシキ、夕日に群れる
三宅 武	1990 樹上性のヒメクロゴキブリ県下で再記録
三宅 武	1991 宇目町杉ヶ越アサガラ花上のカミキリ
佐々木茂美	1991 上浦町津井浦にリュウキュウヒメカミキリ
堤内雄二	1991 番匠川本川流域の昆虫
三宅 武・堤内雄二	1991 大分県のナカボソタマムシ4種の記録
羽田孝吉	1991 ホソリンゴカミキリの食樹と後食について
堤内雄二	1991 宇目町にてウスイロコノマチョウ採集
三宅 武・堤内雄二	1991 アオタテハモドキを大分県で採集
三宅 武	1994 1992年県南各地でヤクシマルリシジミ大発生
三宅 武	1994 蒲江町初冬の蝶12種
佐々木茂美	1994 杉ヶ越にてアカメガシワ花上よりアオカミキリ採集
佐々木茂美	1994 ヒゲコガネ・シロスジコガネの記録
中島三夫	1994 ニセハマヒョウタンゴミムシダマシの記録
佐々木茂美	1994 シロイチモジトウの合成フェロモンに集まるクロクシコメツキ
衛藤孝二	1995 番匠川流域の昆虫相の解明
中島三夫	1996 イガブチヒゲハナカミキリの新産地
野崎敦士	1996 蒲江町でヤツボシハナカミキリを採集
衛藤孝二	1996 ヤクシマミドリシジミ幼虫を2月に採集
三宅 武	1996 ヤクシマミドリシジミを鶴御崎灯台付近で多数目撃
堤内雄二	1996 93～'94大分県のヤクシマルリシジミ
堤内雄二	1997 大分県のタマムシ (1)
堤内雄二	1998 大分県で採集したゲンゴロウ
三宅 武・羽田孝吉・堤内雄二	2000 大分県のタマムシ (2)
野崎敦士	2001 大分県のAphodius属マグソコガネ
三宅 武	2001 大分県にてアマミウラナミシジミを採集
三宅 武・宮田 彬	2001 アマミウラナミシジミの追加記録
三宅 武・宮田 彬	2002 大分県の土壌昆虫ーハネカクシ科
三宅 武・宮田 彬	2002 大分県の土壌昆虫ーアリヅカムシ科
三宅 武・宮田 彬	2002 大分県の土壌昆虫ーハムシ科・ゾウムシ科
羽田孝吉・三宅 武	2002 大分県の土壌昆虫ーアリ科
真柴茂彦	2002 希少なエンマコガネ2種の採集記録
三宅 武	2002 カバマダラの目撃記録
三宅 武	2002 ヤクシマルリシジミの主として冬季の追跡記録
三宅 武	2003 大分県産ハネカクシ目録 I
三宅 武	2003 迷蝶アマミウラナミシジミを再び採集
三宅 武	2003 屋形島の昆虫
三宅 武	2003 コバノガズミにてコツバメ幼虫を採集
三宅 武	2003 ムラサキツバメの記録 5 例
三宅 武	2003 ウラキンシジミの活動時間の 1 例
玉嶋勝範	2004 サツマゴキブリを蒲江町竹野浦で採集
三宅 武	2005 ホソコハナムグリ米水津村に産す
堤内雄二・三宅 武	2005 ミカドテントウの大分県の採集記録
堀田 実	2005 佐伯市でヤクシマトゲオトンボを記録
三宅 武	2005 県南沿岸部でアカシジミを目撃
三宅 武	2005 迷蝶アマミウラナミシジミを三たび採集
三宅 武	2005 カバマダラ 2 年に亘り発生
三宅 武	2005 アオマツムシの大分県への移入経路
堤内雄二	2006 大分県初記録のマメクワガタ
瀬戸屋耕二	2006 佐伯市波当津でタテハモドキを確認
三宅 武	2006 佐伯市波当津でアマミウラナミシジミを採集
堤内雄二	2006 大分県のコメツキムシの記録 (1)
堤内雄二	2006 大分県産ゾウムシ上科 3 5 種の採集記録
羽田孝吉	2006 大分県内におけるコブスジコガネ属Troxの記録
羽田孝吉	2006 大分県内におけるアカマダラセンチコガネの記録
岡本 潤・三宅 武	2007 灯火採集で得られた大分県の昆虫(2006年)

- 玉嶋 勝範
堀田 実
三宅 武
三宅 武
三宅 武
増田 徹也
堤内 雄二
堤内 雄二
野村 周平・三宅 武
三宅 武・玉嶋 勝範・玉嶋 弘範
野崎 敦士
堀田 実
三宅 武
玉嶋 勝範
三宅 武
堤内 雄二
三宅 武
野村周平・三宅 武
花宮俊策
花宮俊策
玉嶋 勝範
三宅 武・堤内 雄二・羽田 孝吉
堤内 雄二
玉嶋 勝範・三宅 武
三宅 武
柳迫 欽也
玉嶋 勝範
柳迫 欽也
三宅 武・玉嶋 勝範・執行 正清
三宅 武
玉嶋 勝範
佐々木 茂美
佐々木 茂美
佐々木 茂美
立川 裕史
堀田 実
三宅 武
花宮 俊策
堤内 雄二
三宅 武・堤内 雄二
今坂 正一
玉嶋 勝範
花宮 俊策
花宮 俊策
堤内 雄二
花宮 俊策
堤内 雄二
三宅 武
立川 裕史
佐々木 茂美
佐々木 茂美
佐々木 茂美
倉品治男・松木和雄・堀田実・加納一信・長谷川正美 (2007) 大分県のトンボ. 371pp. 九州トンボ談話会
真柴茂彦他 (2000) 鶴見町の自然 鶴見町産業振興課
真柴茂彦 (2000) 鶴見町の自然. 198-205
真柴茂彦 (2001) 鶴見町の植物. 51-55 鶴見町教育委員会
弥生町史124-157
上浦町史88-94
蒲江町史117-120
宇目町史29-35
藤河内溪谷周辺地域自然環境学術調査報告書 (2000) 77-86 87-92
鶴見半島及び大島地域自然環境学術調査報告書 (2004) 73-82
三宅武 (2009) 大分県のカミキリムシ. 135pp. 六本脚
2007 県南地域におけるチョウの記録
2007 大分県でベニトンボを確認
2007 大分県初記録のリュウキュウムラサキ
2007 モンシロモドキ佐伯市波当津で発生
2007 大分県のゲンゴロウ1940年代の記録について
2007 杉ヶ越におけるマルツヤマグソコガネの初記録
2007 大分県産ヒメツノゴミムシダマシ属3種の記録
2007 大分県のタマムシ (3)
2008 大分県内で採集したアリヅカムシ
2008 佐伯市でサンカクチバを採集
2008 珍しくなくなったサンカクチバ
2008 ヤクシマトゲオトンボの新産地
2008 珍種クチキゴミムシを採集
2008 佐伯市でネプトクワガタを採集
2008 半翅 (カメムシ) 目の大分県新記録種
2008 大分県で採集したベニボタル
2009 大分県下各地で落葉下採集した昆虫
2009 大分県内で採集したアリヅカムシ (第2報)
2009 佐伯市弥生のクロモンシタバ
2009 ルリモンホソバを採集
2009 ホソツツリンゴカミキリを佐伯市米水津で採集
2010 藤河内溪谷の注目すべき昆虫相
2010 大分県のコムツキムシの記録 (2)
2010 大分県のクロマダラソテツジミ2009年
2010 大分県のルリウラナミシジミ2009年
2010 佐伯市蒲江でルリウラナミシジミを採集
2010 アマミウラナミシジミを佐伯市鶴見崎で採集
2010 佐伯市の2カ所で確認したカバマダラの記録
2010 佐伯市の8カ所でカバマダラを確認
2010 県南部でのタテハモドキの発生確認
2010 ウラナミジャノメの採集記録2009
2010 大分県初記録のクロミナミボタル
2010 九州初記録のヘリムネキスイの記録
2010 ナガイホソナガクチキの記録
2010 カミキリムシ数種の分布記録
2010 佐伯市と豊後高田市でネアコシヤンマを確認
2010 佐伯市蒲江でベニトンボを確認
2010 アメリカジガバチについて
2011 大分県のナガヒラタムシ科
2011 大分県のセスジムシ科
2011 日本産クシヒゲボタル属 (Cyphonocerus) について
2011 大分県における迷蝶6種の記録 (2010年)
2011 キイロミモンエダシヤクを佐伯市弥生で採集
2011 佐伯市木立におけるベニトンボの発生について
2011 大分県初記録のアカギカメムシ
2011 私が採集したキンカメムシ科のカメムシ
2011 大分県初記録のコガタウミアメンボ
2011 大分県のエンマムシ3種
2011 佐伯市上浦でアヤムネスジタマムシとアオマダラタマムシを採集
2011 カクホソカタムシ科2種の記録
2011 県下初記録のマルガタテントウダマシ2種
2011 オオアカマルノミハムシの記録